



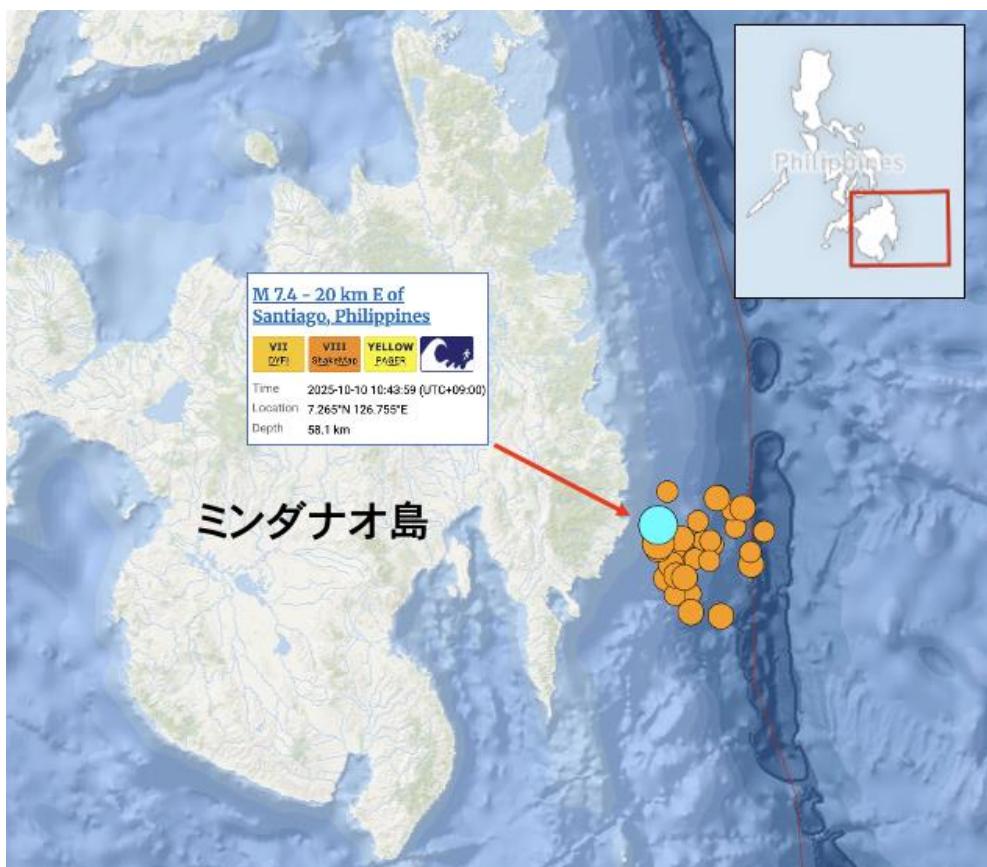
DuMA ニュースレター

2025年10月13日

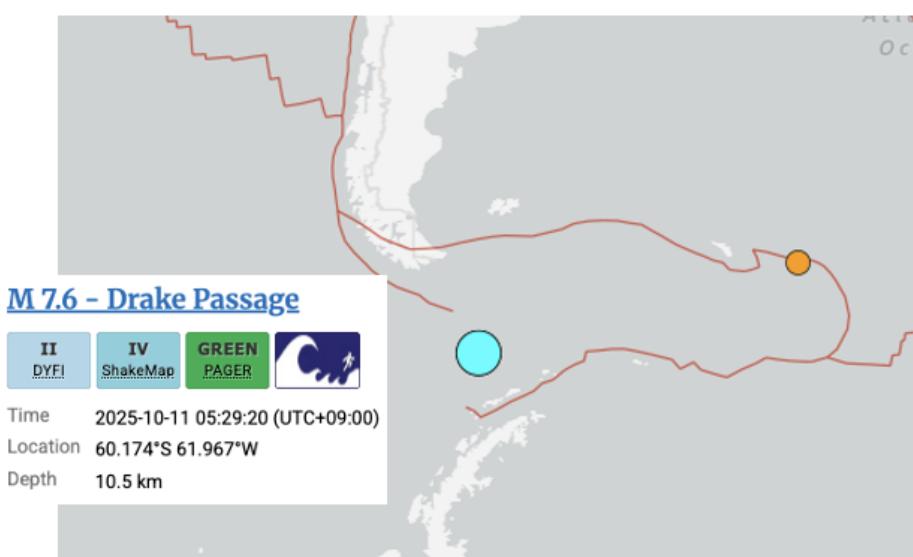
フィリピン南部沖でM7.4の強い地震

フィリピン南部ミンダナオ島沖で10日、マグニチュード(M)7.4の強い地震が発生し、少なくとも2人が死亡したと報告されています。震源に近い地域では建物が損壊し、当局は強い余震への警戒を呼びかけています。幸い津波警報はその後解除されました。また今回の地震は近年発生した中でも最も強いものと報道されています。

フィリピンでは、9月末にも中部セブ島沖でM6.9の地震が発生し、72人が死亡しています。



また、11日には南米チリと南極半島の間のドレーク海峡でもマグニチュード7.6の地震が発生しました。



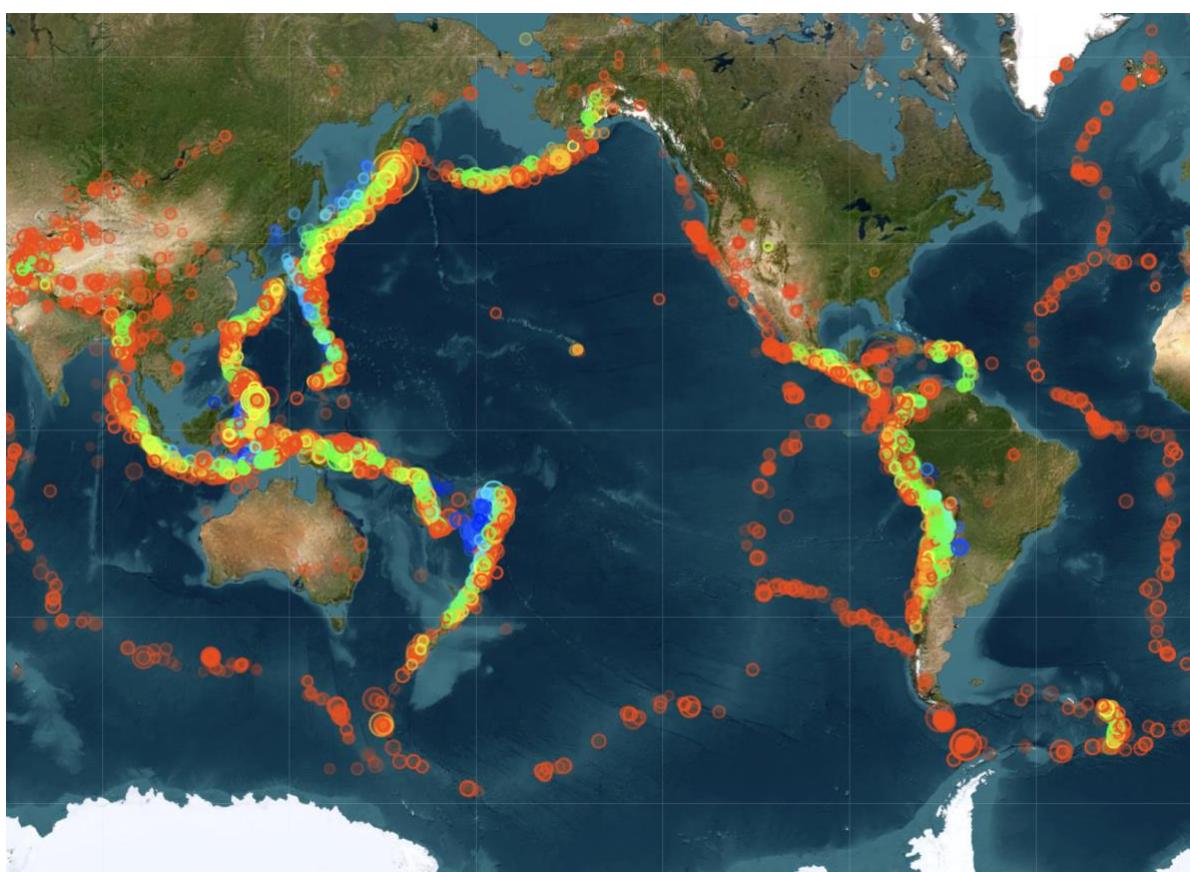


このドレーク海峡の地震も陸域で発生すれば大きな被害が生じますが、幸い海域で発生したため、被害地震にはなりませんでした。地震が発生する場所と人口稠密地との距離がその被害を大きくするかそうでないかの鍵である事がお分かりいただけるのではないでしょうか。

世界ではどれくらいの地震が発生しているのか？

みなさまは、新聞やテレビでの報道により日本周辺でどれくらいの地震が発生しているかをお知りになるかと思います。基本的には気象庁は有感（震度1以上を観測した地震）を報道しています。日本およびその周辺では平均して一年に2000個前後の有感地震が発生しています。ただそのほとんどは震度1とか2程度のもので、震度4以上に限定しますと、2020年；38回、2021年；50回、2022年；46回、2023年；68回、2024年；135回となっています。2024年が多いのは元日に発生した能登半島地震の影響です。

それでは世界ではどれくらいの地震が発生しているのでしょうか？次の図は中部大学が作成した過去1年間に発生したマグニチュード4（震度4ではありません）以上の地震の分布です。およそ年間12,000個ほど発生しているのです。

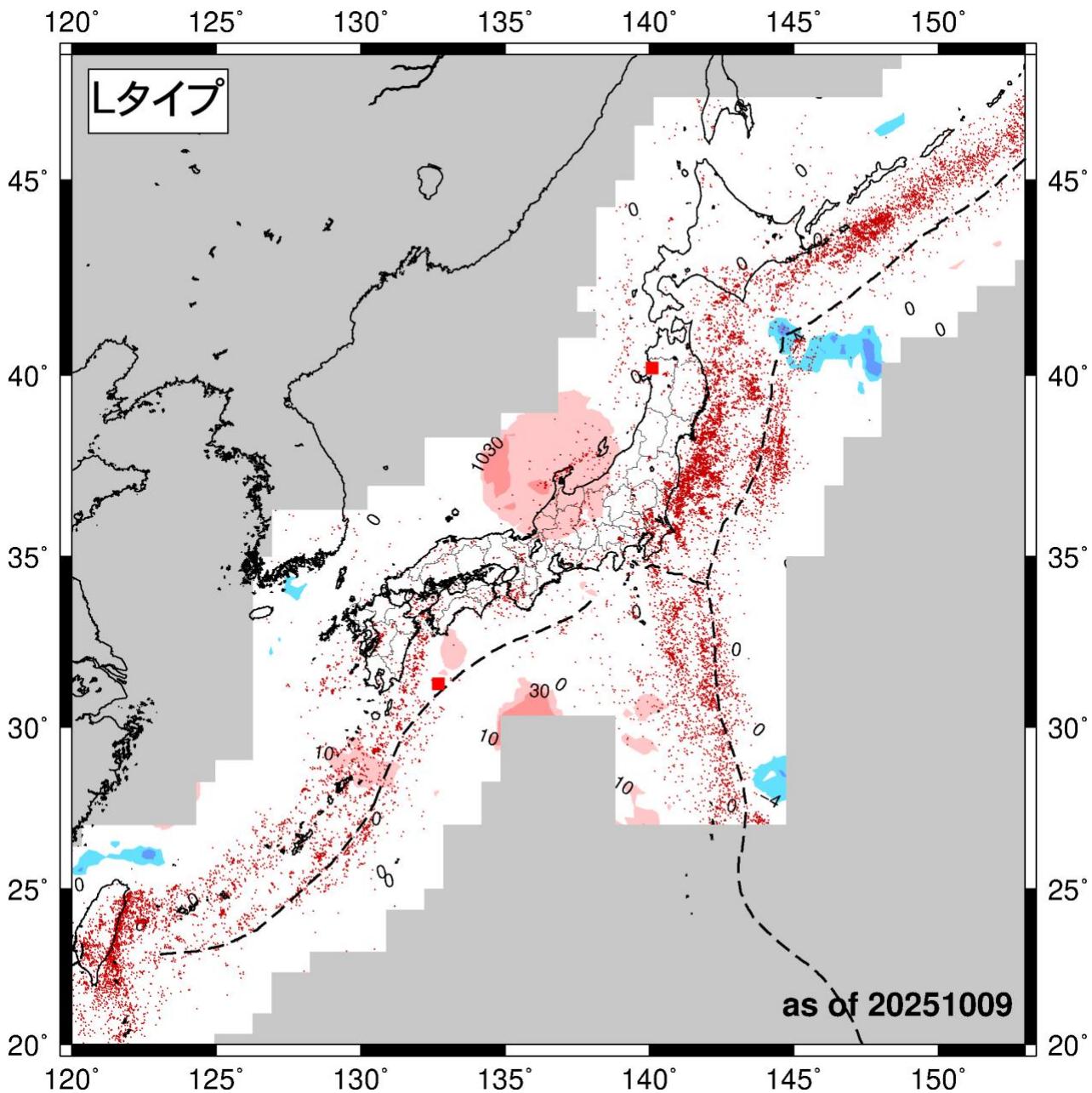


環太平洋地域は Ring of Fire と呼ばれており、環太平洋地震・火山帯とも言われています。今週号で紹介したフィリピン沖もドレーク海峡もまさにこの Ring of Fire での地震活動です。



日本およびその周辺の広域地下天気図®

8月25日のニュースレターに続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。今週号では10月9日時点のLタイプ地下天気図をお示しします。



北海道沖・青森沖に見られていた静穏化領域はまだ継続している事がわかりました。ちなみに先週号(10月6日号)は、東北地方海域の地震活動に特化したものですが、少し静穏化の領域が異なっている事がわかります。これは解析に使用する地震の条件が少し異なっているため、どちらが正しいとか間違っているという事ではありません。

上の地下天気図でお示ししたのが次ページにお示しするダッシュボードで千島海溝・日本海溝会合部の異常(Jj)というもので、先週号のアウターライズの異常はダッシュボードの(R)の異常に相当します。

解析結果が異なるのは、例えば普通の天気図でも同じ日に地上の天気図と高層天気図の2つが存在するのと同様な事とお考えください。どちらも正しいのです。



DuMA ダッシュボード

10月13日時点のダッシュボードです。今回は新たに (Jj) の異常を追加しました。また中部地方陸域の異常 (X) を有効期間満了という事で削除しました。

今回のダッシュボードから、前回からコメント等が変更・追加された部分を太字で表現する事にいたしました。

更新日

2025.10.13

地下天気図 [®] 解析	地域	警戒度 (異常の確度)	現状	静穩化・活発化期間		予測有効期間 関連情報	備考
				いつ頃から	いつ頃まで		
静穩化異常 継続中	北海道根室・釧路 沖 (Gg)	Low	静穩化異常の中心は釧路 沖の海域と考えられる	2024年11月	2025年5月	2025年中	2025年4月21日の北海道の解 析では異常が見られない事か ら精度を Low とした。発生し ても M 6 程度か
静穩化異常 ほぼ解消	千島海溝・日本海 溝会合部 (Jj)	Medium	静穩化はかなり解消して いる	2024年12月	2025年10月 解消傾向	解消と判断して から 6 ヶ月ほど 当面2026年3月 迄	これまで掲載を迷っていた が、今回のダッシュボードか ら掲載する事とした
静穩化異常 ほぼ解消	宮城沖を中心とす るアッターライズ 地域 (R)	High	日本海溝の東側（アッ ターライズ）の地域で静 穩化が継続中	2020年9月	2025年10月 解消傾向	解消と判断して から 6 ヶ月ほど 当面2026年3月 迄	現在、静穩化の中心は青森沖に 北上している
静穩化異常 解消	中国地方 (Bb)	High	岡山県を中心とする地域 で静穩化を確認 近畿地方に静穩化が拡大 か	2024年3月	2025年10月	中国地方は静穩 化解消と判断 <u>2026年3月迄</u>	異常の空間的な形状がはっきり してきた事とMタイプ、Lタイ プいずれでも静穩化を確認
静穩化異常 継続中	九州北部 (Y)	Medium	福岡県を中心に地震活動 静穩化を確認、現在静穩 化の中心が西側へ移動	2023年10月	継続中		この地域には警固断層が位置し ている。静穩化面積が小さいの で、M7を超える可能性は低い
静穩化異常	兵庫・大阪を含む 紀伊半島 (H h)	Medium	今回追加した静穩化の異 常、MタイプだけでなくL タイプでも確認される	2025年6月	継続中		今後の推移に注視。 (Bb)から 独立した異常とした
活発化異常 継続中	能登半島周辺 (S)	High	2024年1月1日、令和6年能 登半島地震が発生！能登半 島の東側（佐渡島側）も西 側も歪の蓄積がさらに進行 している	2021年9月	継続中		11月26日に能登半島西方で M6.4の地震が発生。今後は能登 半島の東側（佐渡島近傍）での 誘発地震の発生が危惧される
活発化異常 継続中	小笠原諸島周辺 (W)	Medium	2023年10月初旬より、鳥島 西方で活発な地震活動開 始。10月には津波注意報が 2度発令された	2022年10月	継続中		西之島の噴火や硫黄島の噴火な ど、この海域では火山活動が活 発化している
活発化異常 ほぼ終了	日向灘 (Ff)	Medium	2024年4月に豊後水道で M6.6の地震が発生したが、 この活発化は宮崎沖が中心	2024年2月	ほぼ解消		8月8日、臨時情報発表の元と なったM7.1の地震が発生 さらに2025年1月13日にもM6.9 が発生
別種の異常	房総半島沖 (Aa)	High	過去の地震活動解析から房 総半島沖で被害地震発生の 可能性大	2025年末まで		過去の地震発生状 況を考慮し、予測 期間を2025年末ま でとした	房総半島沖では1912年、1950 年、1987年とM6.5前後の地震 が発生しており、スロースリッ ップと関連している可能性大